

令和元年度 国有林モニター会議

北海道森林管理局では、開かれた「国民の森林」として国有林野の管理・経営を行うため、2年間に任期とする国有林モニターを、公募により全道各地の48名の方にお願しいし、国有林に対するご意見ご要望を伺っています。



新島森林管理局長の挨拶

このたび、今期のモニター活動の締めくくりとなる国有林モニター会議を2月15日（土）、北海道森林管理局大会議室において、開催し、各地からモニター22名に参加いただき、北海道森林管理局や北海道の国有林などに対するご意見・要望などをそれぞれお聞きしました。

会議のはじめに、北海道森林管理局長から「北海道国有林の人工林は、針葉樹と広葉樹が様々な割合で生育しているのが特徴であり、この特徴を活かしながら公益的機能が高い、百年、二百年生のかつて北海道にあったような森林づくりを目指します。また、国有林と協調出荷してもらうことにより、民有林の森林所有者にも利益がでるよう、事業を実施して参ります。」と挨拶を行いました。



会議会場の大会議室

続いて、各国有林モニターから、この2年間の活動を振り返りながら、感想や要望等を話していただきました。



2年間の活動を振り返るスライドショー

国有林モニターから、「これまで以上に森林に関心を持つようになった」、「局長の話にあった北海道ならではの森林づくりに希望を感じた」といった感想のほか、「森林管理局のロビーに展示されている漫画のポスターがとても良かった。是非、次世代の子どもたちのためにこういうものを活用して欲しい。」という要望があり、次年度に道内の小中学校に配布することを説明しました。その他、「森林管理局では今後ドローンをどのように活用するのか」という質問が

あり、「ドローンを災害対応にどんどん活用していきたい。そのために、各署に3台のドローンを配置している。今後は、ドローンによる撮影の精度や調査範囲を向上させていきたい」ということを説明しました。



国有林モニターとの意見交換

また、「次期のモニターに応募するよう知人に勧めた」、「モニター終了後は森林ボランティアとして森林に関わっていきたい」などの言葉もいただきました。今後、北海道森林管理局としましては、これらのご意見を業務運営に活かして参ります。

(企画課)

今月の表紙

七飯町の吉野山にあるカラマツ林です。

寒さに震えて、雪の下になっていたササが、ぴょんぴょんと頭を出して、久しぶりに森林に緑が戻ってきました。カラマツは漢字で落葉松と書き、冬には葉を落とします。そのためでしょうか、他の林に比べて雪解けが早く感じられ、一足早く春が来るような気がします。

もり
 広報 「北の森林 国有林」 3月号
 発行 北海道森林管理局
 編集 総務企画部 企画課
 〒064-8537 札幌市中央区宮の森
 3条7丁目70番
 I P 電話 050-3160-6300
 電 話 011-622-5213
 F A X 011-622-5194
<http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>